

様式第 2 号

視察研修先	栃木県大田原市	氏名	沖津 一博
視察研修項目	旧蜂巢小学校の利活用について(多機能型障害福祉サービス事業所)		
1 はじめに 大田原市は、栃木県の北東部に位置し、関東平野の北端、東京から北に約150キロメートル、県庁所在地の宇都宮市からは車で約1時間。東西に長い形状を呈しており、市境の東側は県境として茨城県及び福島県と接しています。県東部には八溝山地が茨城県との県境に沿って延びるが、中央部-西部にかけては那須野が原扇状地の扇端付近にあたる平地が広がっています。 また、交通アクセスは、市西端部の野崎地区に東北本線(JR宇都宮線)が通じており、野崎駅(東京起点146.6km)が設置されています。道路網では国道400号・国道461号が、大田原市街の中心で交差し東西南北へ延びています。その他黒羽市街、湯津上市街を縦断し那須烏山市方面へ通じる国道294号は、市内を那珂川に沿って延び、野崎地区には国道4号が南北に縦断しています。 産業は、農業が盛んで、米の収穫量、産出量及び品質は、関東地方トップです。特に、コシヒカリ、とちぎの星など食味について、市内の多くの農家が食味コンクールで入賞を果たしております。そのほか、果樹では梨、野菜ではいちご、アスパラガス、ネギ、トマトなどの園芸作物が盛んで、さらに栃木牛などの高級牛肉を生産しており、市場からも高い評価を得ています。市内の工業団地では、大手企業が生産拠点として立地しています。 2 視察内容 大田原市では、小中学校の統廃合によって生じた廃校について、2012年度から随時活用者の募集を行っており、2020年度からは、市有財産のうち民間活力による効果的な活用が期待されるものを対象に「大田原市有財産活用民間提案制度」により、積極的な利活用提案の募集を行ってきました。現在まで、廃校となった10校、最近廃校になった2校の12校のほぼ全てにおいて民間事業者や市の担当部局において活用がなされております。今回は、その中のひとつである「旧蜂巢(はちす)小学校」の利活用について、詳しく視察させていただきました。 ① 廃校を「解体」ではなく「民間事業者の利活用」としたことや事業開始までの経緯は、平成25年12月に地元説明会を実施してから、平成26年4月に事業者エルム福祉社と貸借契約締結、27年9月 改修工事開始し、平成28年2月に工事完了し、4月に開店した。令和6年4月には、10年契約更新した。廃校後の利活用について、地元の要望を丁寧にお聞きして、公募型プロポーザル方式によって公共入札を実施し、当該民間事業者を決定した。			

活用すると決まってから事業が開始するまでに苦労したことは、建築基準法の用途変更協議、消防法の避難路確保、非常用照明設備設置などです。また、できるだけ優位な補助金の活用も行いました。

- ② プロポーザル審査において重視された点、当該事業者を選定した理由は、地域とのつながりがある利活用の当該事業者が最高点数で落札した。
- ③ 大田原市公有財産貸借契約を締結して、賃料は無料。大規模修繕については両方で協議の上、割合を決定。
- ④ 約10年間が経過していますが、事業者の運営状況はきわめて良好で、売り上げは伸びている。
- ⑤ 利用者や市民からの声は、大変高評価を得ていて今後も期待されている。今後、障がい者の自立支援に寄与できるよう頑張っていきたい。
- ⑥ R C鉄筋コンクリート造の2階以上の校舎は、借り手が非常に少ない。一方の木造建築物は、温かみがあるとともに店舗などに適している。

3 所感

本市の廃校となる校舎の利活用については、基本的には、地元の要望に応えうる事業者がいるかどうかです。教育施設として、公共用施設として、利活用が見込めないものについては、事業者を公募して貸借する方法はありますが、皆無であれば、更地にして屋外施設のみ維持するか、土地を売却する方法しかありません。地域のかげがえのないシンボルで、文化やイベントの拠点であり、災害時の指定避難所となっている小中学校について、簡単に解体撤去できない重要な課題です。できる限り早急に利活用計画の方向性を見出していくことが必要だと思います。

4 むすびに

この度の行政視察に際しまして、快く受け入れていただきました大田原市議会様はじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

様式第2号

視察研修先	栃木県那須町	氏名	沖津 一博
視察研修項目	旧朝日小学校の利活用について(那須まちづくり広場)		
1 はじめに 那須町は、栃木県の最北端に位置し、首都東京からは約170キロメートルにあり東京から仙台間の中間に位置しています。那須連山と八溝の山並みに広がる町は、北西部に那須連山の主峰、茶臼岳(1915メートル)がそびえ、今なお煙を吐き続けています。その南斜面には、1390年の歴史を持つ温泉があり、日光国立公園「那須温泉郷」として観光の名所となっています。山麓地帯には、別荘地やテーマパークがあり高原地帯には、傾斜地を利用した酪農が続き、中央・東部地区には、水田地帯が広がっています。また、南東部の伊王野・芦野地区には源義経に始まり、俳人松尾芭蕉に至るまで多くの史跡があるほか林業・石材業の町として発展を続けています。 2 視察内容 那須町では、旧朝日小学校廃校利活用し、那須まちづくり株式会社と一般社団法人コミュニティネットワーク協会が「那須まちづくり広場」を運営している。ひろばの家サービス付き高齢者向け住宅の中の交流ホールは、可動仕切り壁の再利用によって(96m² 定員100人)有効活用されているわけですが、会議、イベント、講習会、コンサートなどの事業実績について(予約状況から毎日利用されていることがわかる)、校舎や体育館のリノベーション経費について、自己資金 補助金などをお聞きすることができました。自立スタイルの住宅の管理運営をする那須まちづくり株式会社が運営するのは、ご提供いただいた資料によれば、交流ホール「ひろばのひろば」、アートギャラリー「LaLa えすぱす」ブックギャラリー「LaLaいくた」、自立の方向けサービス付き高齢者向け住宅、ひろばの家・那須1」多世代賃貸セーフティネット住宅、「ひろばの家・那須3」、オーガニックコットン・竹布の店、「めぐり氣まま」および授乳スペース、ボランティア控え室などです。 【主な質疑】 (1)「那須まちづくり」という観点から整備しようと考えた理由は、地元住民2人を含めた10人の委員からなる審査により、審査項目 1 法人等の安定性 2 事業の実現性・継続性 3 地域への貢献度 4 地域との調和性などで最高点を獲得したため、総合的な事業提案の中で選定されたものです。 (2)一定期間経過していますが事業者の運営状況については、高齢者の移住定住促進に軸を置きながらも、多世代交流、地域活性化、健康増進、文化活動など多岐にわたる取り組みで、誰もが生きがいを持って暮らせる「生涯学習のまち」実現に寄与していると確信しています。			

- (3) 運営に対して行政のかかわり方は、運営推進会議への参加、町主催の研修会、介護に関する入門などに講師として招聘しています。町の各種計画との関係については、地域共生社会の実現に向け、各種計画の施策に活かされています。
- (4) 町民とのかかわり、特に地元の高齢者、子育て世代との交流など町民や利用者からの声については、多世代交流、地域活性化、健康増進、文化活動など多岐にわたる取り組みで大変高い評価を得ています。
- (5) 今後行政として期待することは、高齢者の増加について対応するため、受け入れ人数の拡充、認知症高齢者を最期まで安心して看ることのできる体制整備です。

3 所感

「廃校」とは、児童生徒数の減少や、学校の統合、廃止によって学校が使わなくなることはいいますが、本市の小中学校は、鉄筋コンクリート3階建てのものがほとんどであり、維持管理が困難で、貸借契約を求める事業者が極めて少ないことが推測されます。そのため、建物については、耐用年数が経過して危険なものから解体を余儀なくされることは間違いないため、災害時に指定避難所となる体育館などの必要な構造物を除き、撤去されるでしょう。そうすると、教育施設として、公共用施設として、利活用が見込めないものについては、事業者を公募して貸借する方法はありますが、皆無であれば、更地にして屋外施設のみ維持するか、土地を売却する方法しかありません。地域のかげがえのないシンボルで、文化やイベントの拠点であり、災害時の指定避難所となっている小中学校について、簡単に解体撤去できない重要な課題です。計画がありながら利活用が未定であるものについて、できる限り早急に利活用計画の方向性を見出していくことが必要だと、強く痛感しました。

4 むすびに

この度の行政視察に際しまして、快く受け入れていただきました齋藤議長はじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。視察当日は、公私とも大変ご多忙にもかかわらず、関係議員の皆様から議会としてのこれまでの対応や議論についてご説明を賜りました。建設的な議論を踏まえ、今後の道筋までお話いただき、心より感謝申し上げます。

様式第 2 号

視察研修先	宮城県白石市	氏名	沖津 一博
視察研修項目	学びの多様化学校(白石きぼう学園)について		
1 はじめに 白石市は、宮城県の南端にあり、西には雄大な自然景観をもつ国定公園蔵王連峰と東には阿武隈山系が連なる、南北に長い盆地のまちです。市街地の北側を白石川が西から東に流れ、町中の隅々にまで先人たちが築き上げた掘割が巡り、水と豊かな町並みを作り上げている城下町です。 直近の人口 30,105人 14,013世帯(9月30日現在) 当初予算 一般会計 19,217,307千円 議員定数 16人 2 視察事項 文部科学省からの指定を基に、令和5年4月に学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)「白石きぼう学園(旧白石南小学校・白石南中学校)」を開校しました。公立の小中一貫校として設置し、東北では初、全国でも2校しかない学校です。白石市でも不登校は課題の一つです。これまでも児童生徒の多様な学び・不登校児童生徒に対する支援として、白石市教育支援センター「子どもの心のケアハウス」や仙南けやき教室、学び支援教室などの整備・充実を進めてきました。 この度の「白石きぼう学園(旧白石南小学校・白石南中学校)」の開校は、学びの場の選択肢の一つとして新たな学校を設置し、児童生徒の「学力の保証」「社会的自立」に結び付けていくことを目指しています。白石きぼう学園は、特別の教育課程を編成し、不登校児童生徒の実態に配慮した個に応じた学びを実施するものです。市内すべての小中学校に在籍する児童生徒を対象としています。 【主な質疑応答】 (1) 学びの多様化学校開設までの経緯については、令和4年3月に申請し、8月に校長会説明やプレオープンスクール、保護者説明会を実施し、市内教職員研修や広報紙アナウンスを経て、12月に、募集開始、議会議案審議し、令和5年1月に文部科学大臣指定、令和5年2月に学校設置条例改正、設置開校の予算審議で可決。4月に「学びの多様化学校(不登校特例校)」を開校しました。 (2) 開校からの在籍児童・生徒数の推移については、令和5年4月 児童2名 生徒16名 合計18名 令和6年4月 児童11名 生徒16名 合計 27名 令和7年4月児童11名 生徒27名 合計38名 現在39名となっています。教職員は、校長教頭(小中各1名)養護教諭 事務職員 スクールカウンセラー 小学校教諭等4名中学校教諭等8名 市			

費指導支援員 4 名 市費業務員などです。

- (3) 開校後、入学した生徒たちの変化は、「白石タイム」で基礎的な学力が保障され、他校とは違う特別な学びでマイペースが最大限尊重され、個別学習で学びなおしができ、多くの体験をしながら良い変化をもたらすまなびの場となっている。希望すれば、高校入試等の外部のテストを受けることもできます。多くの児童生徒が安心して学校に通えるようになっています。
- (4) 保護者からの声は、学校に居場所ができた 学校に行くことで前向きになった 少しずつ将来のことが考えることができるようになった 仕事を持てた 家で子どもの帰りを迎えらるようになったなど
- (5) 他市から転入して入学する子どもは、児童生徒の 2 割程度が他市より移住しています。
- (6) 今後の課題と考えていること、重要だと思う点は、山形県上山市の「きらり学園」の交流を計画しています。今後、県を超えた連携を築いていくことも課題です。

3 むすびに

この度は、私どもの行政視察に際しまして、快く受け入れていただきました白石市議会様、半沢教育長はじめ学校関係者及び議会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。大変参考になり、できる限り執行部に提言してまいります。大変ありがとうございました。